留萌市史……⑱

大留萌の建設事業

留萌川切替え で港を建設へ

留萌が大留萌建設の事業を果すため、当時、国の拓殖計画で留萌川をそのまま海に直下し、内港を掘さくするように計画されたものを変更し、留萌川の切替工事廃川埋立て、副港築設、道路新設、排水溝建設、橋梁架設および河川締切りなどの土木事業を企てた。

これは留萌港が①鉄道と内港の連絡を便利にし、②内港への土砂浸入の防止、③不凍港（従来留萌川は冬期氷結）にするという三点港がねらいであった。

なお、その廃川地帯は市街区画増設に転用し、整備の上、本起債の償還財源に充当して、町民の負担を避け、一挙に三、四得となると考えられたからである。

大正十四年一月の「大留萌建設土木工事概況」によると、大正九年十月の議会において採択された町債は、十年二月の内務、大蔵両大臣の許可があり、翌十一年四月工事の入札が行なわれた。

この全事業が終ったのは大正十三年十二月で、費した歳月は約二年である。

なお、留萌町会に事業計画が提案されたのは大正九年四月である

■新川掘さく　もともと留萌川は極めて原始的な河川で、流路は曲折していた。

現在の市街地にあたる地域でもその曲折なつづき、河底の勾配は千分または三千分の一にあたり、流れは遅々としていた。

この曲折のひどい川を新川として港外を通し、海に放水させるとその延長が二分の一に短縮され、その上水位が約一・二㍍程低下するので、汐流の影響する区域は前よりも上流に伸びて川水の氾濫を防止し、他面これに人工を加えると舟行の便をさらに上流までのばすことができる。

工事は、延長約三キロ、竣工な大正十一年十一月に開通、経費は約三十九万円であった。

■廃川地埋立　新川の掘さくによって、廃川地帯の埋立作業が行なわれ、作業は付近の高地丘陵の土砂を運搬利用して埋立て、新市街地を形成することにした。

留萌市街東部地帯はこの埋立てによって造成された。

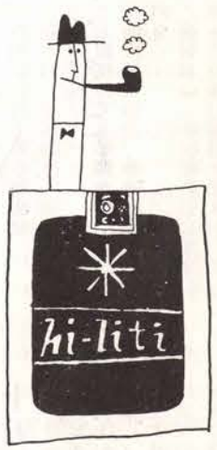
廃川の長さは約七千五十㍍、五・八立方㍍にもおよんでいる。

これに両岸の堤防地を合わせて約二十万坪（六十六万平方㍍）の市街地を新たに得て、町債解決に役立つはずである。

■副港築設　副港の完成をみた当時の世評は「本邦において珍らしい三段式港湾」として好評であった。

副港築設の目的は、留萌本港の竣工の後に、外港は船舶の碇泊投錨地とし、内港は鉄道による貨物すなわち石炭、木材などの処理のためとし、近海航路の小船や艀などを入れる。

副港は本港の能率化を補うものにしようということであった。



たばこは留萌で買おう

あなたが毎日お吸いになるタバコは、留萌の町づくりに役立っています。タバコ消費税が還元されるからです。他市へお出かけの際でもタバコは留萌で買いましょう

※文芸書・死海のほとり（遠藤周作）・産霊山秘録（半村良）・死の器（野坂昭如）童女入水（野坂昭如）・窓を開けますか？（田辺聖子）・小説信長秀吉家康（愛知県文化財保存振興会編）箱男（安部公房）・笹舟日記（三浦哲郎）・アジアの孤児（呉濁流）・熱気球イカロス五号（梅棹エリオ）・ずぼら人間体験す（吉田知子）・現代作歌用語辞典（木俣修）・日本沈没上、下（小松左京）

※北海道文学資料・物語北海道文学盛衰史（北海道新聞社）・斧と楡のひつぎ（沢田誠一）

※教養・実務書・ユダヤ人はなぜ国を創ったか―イスラエル国家誕生の記録（サイマル出版会）・石油危機と日本の運命（藤原肇）・日本経済の流れ―金解禁から円切上げまで（小島恒久）日本史の虚像と実像（和歌森太郎）・原子核の世界（M・G・マイヤー）・地震の科学（竹内均）・天体写真の写し方（藤井旭）・キャンプの指導（学校体育研究同志会）・ナポレオンその情熱的生涯（加瀬俊一）・続、常識のウソ（石垣純二）・母乳主義（松村竜雄）・レタリング字典（日向数夫）

※昭和四十八年度読書感想文コンクール課題図書は全部そろえています。

※八月一日から、本の貸出は五冊までかりられます。

※八月の休館日・日よう日　五日十二日十九日二十六日・月末せいり日　三十一日

《私の声を市長に送る旬間》

今月31日まで

きたんのない ご意見をお待ちします

健康で明るい留萌のマチづくり〝これを目標に市では、市民のためのあらゆる施策を進めてきましたが、なんといっても、この中には市民皆さんの積極的な意見、希望を反映することこそ、真の市政を進めることになるはずです。

そこで、昨年に続いて、八月十日から三十日までの二十日間を《私の声を市長に送る旬間》とし、市民皆さんからご意見をお寄せいただくことにしました。

左のハガキに、現在行なっている市の仕事や、将来の計画などについて―こうしてほしい、ああしたらどうか、もっとこうしたらなど、なんでもけっこうです。

みなさんが、日ごろ考えていること、みんなで話し合ったことなど、住みよい留萌のためのアイディアや意見を送ってください。

どんな小さなことでもかまいません。建設的なご意見をどしどしお寄せください。

お寄せいただいた、みなさんの貴重なご意見、ご要望は、これからの市政に十分に反映させていきたいと思います。

■期間　八月二十日から三十日

■結果と回答　手紙は直接市長に届け、実施できることは実行に検討を加えるものは積極的に実現化に努力し、回答の必要なものは本人に直接回答いたします

きりとり線

郵便はがき

料金受取人払

留萌局承認 22

差出有効期間 昭和48年8月30日まで（後納）

077－□□

（受取人）

留萌市幸町一丁目

留萌市長　原田　栄一　行

きりとり線

私にお便りをください

留萌市長　原田　栄一

ほんとうに住みよい留萌をつくるために―私がこの信念を持ち、市民の方々の支持を受け、大切な市政をお預りして参りました。

就任以来十二年の間に、留萌市内も大きく変貌して参り、公共施設の整備や街路の整備など、積極的に進めて参ると同時に、本年は市制施行二十五周年ようやく道北中核の青年都市として発展の途上にあるわけです。

私は工場がどんどん進出し、人口が増え公害を起すよりも、現在の留萌市が、より自然に恵まれた緑豊かなで、幸福な市民生活を目標に市政を進めて参りたいと思います。

「市民とともに歩む市政」を、より進めるためにも、皆様の建設的なご意見をお待ちしております。

留萌市長　**原田　栄一**